



Title	Association between infant birth weight and gestational weight gain in Japanese women with diabetes mellitus
Author(s)	藤川, 慧
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/98733
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論 文 内 容 の 要 旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	藤川 慧
論文題名 Title	Association between infant birth weight and gestational weight gain in Japanese women with diabetes mellitus (日本人糖尿病合併妊娠における体重増加量と児体重の関連)
<p>論文内容の要旨</p> <p>〔目的(Purpose)〕 2021年に妊娠中の体重増加基準が改訂され、旧基準に比べて現行基準では妊娠前BMIが30kg/m²未満の妊婦の目標体重増加量が2kgから3kg引き上げられた。旧基準に変えて現行基準を適用することで、糖尿病合併妊娠の過体重児の頻度が増えるか検討する。</p> <p>〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 1982年から2021年に大阪母子医療センターで分娩した、妊娠前BMIが30kg/m²未満の糖尿病合併妊娠369例を対象とした。主要アウトカムはlarge for gestational age (LGA)、副次アウトカムは巨大児、妊娠高血圧腎症、small for gestational age (SGA)、低出生体重児とした。体重増加量が旧基準を満たす旧適切群と現行基準を満たす現適切群のアウトカムの頻度を比較した。LGAの頻度は両群で有意差はなかった(現適切群34.6% [95%信頼区間 25.6%-44.6%]、旧適切群28.9% [21.6%-37.1%]; P=0.246)。巨大児(現適切群8.7% [4.0%-15.8%]、旧適切群5.6% [2.5%-10.8%])、妊娠高血圧腎症(現適切群5.8% [2.1%-12.1%]、旧適切群6.3% [2.9%-11.7%])の頻度も両群で有意差はなかった(P値はそれぞれ0.264、0.824)。一方、SGA(現適切群1.9% [0.2%-6.8%]、旧適切群10.6% [6.0%-16.8%])、低出生体重児(現適切群1.0% [0.02%-5.2%]、旧適切群7.0% [3.4%-12.6%])の頻度は現適切群で有意に低かった(P値はそれぞれ0.001、0.023)。</p> <p>〔総括(Conclusion)〕 現行基準は糖尿病合併妊娠の児体重の適正化に寄与する可能性がある。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 鹿川 慧	
論文審査担当者	(職) 氏名 主査 大阪大学教授 下村 けい一郎
	副査 大阪大学教授 北畠 康弘
	副査 大阪大学教授 久野 実

論文審査の結果の要旨

2021年に妊娠中の体重増加基準が改訂され、旧基準に比べて現行基準では目標体重増加量が引き上げられた。体重増加量と児体重の間には正の相関があり、体重増加基準の引き上げにより過体重児の頻度上昇が危惧される。本研究においては、旧基準に変えて現行基準を適用することで、糖尿病合併妊娠における児体重にどのような変化が予想されるか検討した。

大阪母子医療センターで分娩した糖尿病合併妊娠を対象に、体重増加量が旧基準を満たす症例（旧適切群）と現行基準を満たす症例（現適切群）における周産期合併症の頻度を比較した。旧適切群に比べて現適切群においては、低体重児の頻度が有意に低い一方で過体重児の頻度は増えないことが判明した。

以上のことから、現行基準は糖尿病合併妊娠の児体重の適正化に寄与する可能性があると考えられた。糖尿病合併妊娠における適切な体重管理については情報が乏しく、本検討で得られた結果は非常に重要な知見であり、学位の授与に値すると考えられる。